

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	Blossamジュニア 市川大野教室		
○保護者評価実施期間	2025年2月10日 ～ 2025年2月24日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	2025年2月10日 ～ 2025年2月24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもを十分に理解し、ニーズや課題を分析し計画が作成され、子どもそれぞれの特性に合わせた療育を行っている。	担当制ではなく、全職員が子どもの療育に参加することにより、複数名の視点で、子どもの状況を理解できるようにしている。 日々、会議を行うことにより、子どもの状況を全職員が共有し、療育内容の確認を行い、必要に応じて、タイムリーな改善を実行している。	職員が意識的にスキルアップを行い、さらに専門的な療育を行えるようにする。
2	子どもの活動等のスペースが十分に確保されており、生活空間は、子どもにわかりやすく構造化されている。	子どもが、集中して療育に取り組めるように、個室を完備し、集団室は、物の配置を最小限に留め、広く活動できるようにしている。 子どもがやるべきことや部屋の使用目的などを、ビジュアル化し、分かりやすく構造化している。	子どもや保護者様の意見を積極的に取り入れ、活動スペースだけではなく、必要な機材備品なども充実させていく。
3	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解を行う。	日々の活動内容を、個別療育・集団療育・特記等に分け、（子ども別の専用WEBページにて、）活動内容や所感、活動写真などを掲載し、なるべく詳しく、子どもの状況を保護者様に伝えるように取り組んでいる。	保護者様が活動状況を観察できるような取り組みや、相談しやすい環境を作り、子どもの状況を共有する機会を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	面談や子育てに関する助言等は、全保護者様に対し定期的でできていない部分があり、随時対応している保護者様と、余りできていない保護者様もいる。	定期的な面談を事業所として推奨していることの周知が不足している。	定期的な面談の周知と、保護者様が対応しやすい方法で、面談等を行っていく。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がない。	交流先への積極的な働きかけができていない部分もあるが、交流先の理解が得られないケースもある。	交流先の行事などの情報を取得し、積極的な働きかけを行っていく。
3	子どもが自由な時間に使える玩具、備品など、やや不足している。	費用面なども考慮し、玩具・備品等は必要最小限にとどめている。	子どもの意見も取り入れつつ、新たな玩具・備品等も充実させていく。

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		公表日					
Blossamジュニア 市川大野教室		2025年 3月 20日					
		チェック項目	はい	どちらともいえない/わからない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5			・職員数に応じて、活動を臨機応変に変えている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			・子どもたちからの意見も確認している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5			・毎日の振り返りを行い、一人づつ毎月の目標設定をしています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			・毎日のミーティングで課題について話し合っています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2			・回数としては、まだ少ない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1			・業務との兼ね合いで時間が取れず、まだ十分とはいえない。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			・職員が揃う日に行うことができた。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			・計画を元に1人づつ毎月、目標の設定と振り返りを行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			・振り返りで気になる事は共有し記録にも残している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			・意見を出し合い担当の職員が進会、進行をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			・毎日の活動を見やすく表にし、見える所に置いてある。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			・できる範囲で行えたと思う。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			・前日のミーティングで細かな動きの確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			・一人づつの振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			・振り返りは記録に残し、気になる事はミーティングでその度話合えた。	

	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			・全職員がいる時にモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2			・保健、医療の連携に関しては、相手方の都合もあり十分とはいえない。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		・計画を持って保育園へ行き児童の見学、担任の先生等と話し合いを行うことができた。 ・保育園などと定期的に情報共有できると良い。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		・スマイルプランの作成	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	2	2	・他事業所との連携	
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	1	3	・児童ホーム、公園	・感染症などのリスクもあり、交流に消極的な部分もある。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			・送迎時やHUG、メール等	
	31	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5				
保護者への説明等	32	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			・計画を作る前にアセスメントを行っている。	
	33	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5				
	34	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			・送迎など直接会えない保護者さんたちは、機会が少なくなってしまう。	
	35	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5				
	36	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	2	2		・HPやSNS等の活用は、個人情報の観点からも消極的。
	37	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5				
	38	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			・良い事、悪い事の両方伝える様にしている。	
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。			5		・感染症等のリスクや、地域住民側にニーズが感じられない。
非常時等の対応	40	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5				
	41	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			・各曜日ごとに年3回以上の活動設定をしています。	
	42	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1		・面談時や送りの際児童の体調の確認を行っている。 ・利用開始日にてんかんがあると知ったことがあった。	
	43	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	1	1	・アレルギーの有無は年2回行っていたが医師の指示書は、×。	
	44	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5				
	45	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5				
	46	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			・書面で分かりづらい事のないようミーティングの際、意見交換した。	
	47	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			・プロッサム研修	

	48	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5				
--	----	--	---	--	--	--	--